

発電所だより

9月号

平成27年9月発行 東北電力株式会社 女川原子力発電所総務部広報グループ 女川町塚浜字前田1 電話0225-53-3111 原子力の情報をホームページで公開しています。 <http://www.tohoku-epco.co.jp/>

南側から見た鋼管式鉛直壁
(平成27年8月撮影)

《防潮堤かさ上げ工事が進んでいます》



セメント改良土による堤防
(長さ約120m、海拔約29m)



(平成27年8月撮影)

工事が始まった北側部分。手前の白い部分がセメント改良土。

現在、全長約800mにわたる防潮堤のかさ上げ工事を進めておりますが、長さ約680mの鋼管式鉛直壁部分は8月末現在、168本中94本の鋼管杭を設置しました。

海拔約29m

今後、セメント改良土による堤防も構築しながら、平成29年4月までの完成を目指し、工事を進めてまいります。



土木建築部 土木グループ
小比類巻 久恭 (青森県出身)

土木建築部 土木グループ
津田 幸彦 (石巻市出身)

《これまでの進捗状況》



(平成24年9月撮影)

緊急的な安全対策として防潮堤を海拔約17mへかさ上げ
(平成24年4月完成)



(平成26年3月撮影)

鋼管杭を設置するための作業構台の建設を開始(平成25年8月)



(平成26年11月撮影)

作業構台と下杭(手前の白い円筒)



(平成27年8月撮影)

ずらりと並んだ鋼管式鉛直壁

《東北地方太平洋沖地震による軽微な被害への対応が全て完了しました》

東北地方太平洋沖地震および津波による主要設備への軽微な被害のうち、「2号機タービン建屋外壁のひび割れ」の復旧が7月に完了し、計61件全ての対応が完了しております。

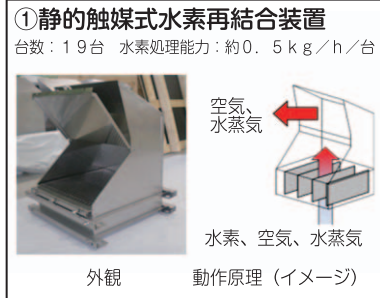
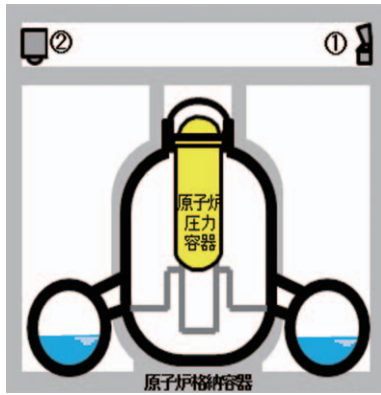


新規制基準適合性審査状況のお知らせ（8月末現在、審査会合63回）

審査状況について（水素対策）

2号機の適合性審査では、重大事故などへの対策のひとつとして、原子炉建屋の水素爆発による損傷を防止するための対策について審議されています。

万が一、格納容器が破損し、原子炉建屋に水素が漏えいした場合、水素濃度の上昇を抑制するため、動力を用いることなく、水素と酸素を触媒反応によって水蒸気に変える「静的触媒式水素再結合装置」や、建屋内の水素濃度を監視するための「水素濃度計」の設置などにより、原子炉建屋の水素爆発を防止します。



審査会合の詳細は当社ホームページをご覧ください。

東北電力 女川審査会合

検索

今後の審査について

8月6日、原子力規制委員会による新規制基準適合性に係る審査会合において、今後の沸騰水型原子炉（BWR）のプラント関係の審査の進め方について、東京電力柏崎刈羽原子力発電所6、7号機の審査を集中的に進めていく方針が示されました。

また、本審査会合後に、原子力規制庁から、地震・津波側の審査で基準地震動Ssが先に決まるプラントが出てきた場合には、プラント側の審査も今回の選定に関わらず先に決めることがありうるとの見解が示されました。

当社はこれまでも、適合性審査において新規制基準適合性に対する当社の考えをしっかりと説明するとともに、審査の過程で得られた知見・評価などを安全対策の設計に適宜反映するなど、原子力発電所の安全性向上に向け着実に審査に対応してきたところです。

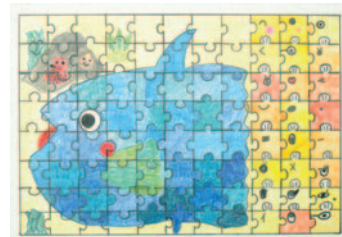
このため、当社としましては、今後集中的に審査が行われる東京電力柏崎刈羽原子力発電所の審査状況を踏まえながら、当社の女川原子力発電所ならびに東通原子力発電所の適合性審査が効率的に行われるようしっかりと対応してまいります。

女川原子力PRセンターからのお知らせ

「東北電力図画コンクール」の一般投票を行います

今回のコンクールにもたくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。9月下旬から10月下旬までの間、一次審査を通過した200作品を女川原子力PRセンターに展示し、来館者の皆さまによる一般投票を行います。

是非、ご来館いただき、お気に入りの作品に投票してください。



昨年の最優秀作品
「パズルフィッシュ」

女川原子力PRセンター 0225-53-3410

開館時間／9：30～16：30 9月14日（月）は休館日

《石巻川開き祭りに参加しました》

「第92回石巻川開き祭り」（実行委員会主催）が7月31日から8月1日にかけて石巻市で開催されました。石巻地域の東北電力グループ企業などで構成する「東北電力企業グループ石巻まつり会」の約200人が参加しました。

黄色と黒の2色の法被を着て参加した「大漁踊り」では、皆が一体となり、全身に汗をにじませながら石巻の夏を楽しみました。また、「縄張神社奉納大縄引き大会」や「孫兵衛船競漕」にも参加し、孫兵衛船競漕では、参加3チームが準々決勝まで進出しましたが、惜しくも敗退。「来年は決勝に」と再チャレンジを誓い合いました。



《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.059マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

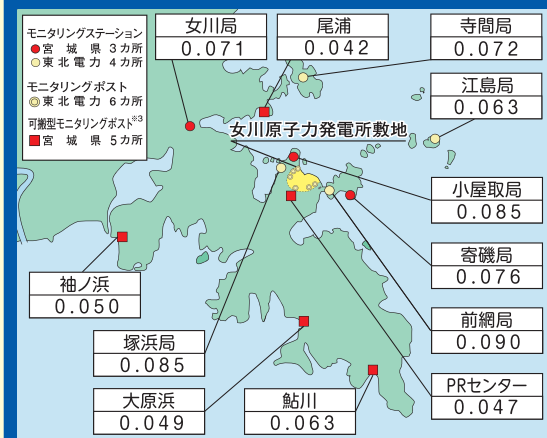
※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、以降で最大値が測定された日（平成23年3月13日）の値、毎年度（4月1日）の値、至近の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

モニタリングステーションの測定状況（8/31現在）



単位：マイクロシーベルト/時

（参考）モニタリングポストの最小値と最大値

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	
平成23年3月11日	0.027～0.064
〈地震発生後最大値〉	
平成23年3月13日	1.8～21※4
〈地震発生以降毎年度（4/1）の値と至近値〉	
平成24年4月1日	0.063～0.098
平成25年4月1日	0.055～0.076
平成26年4月1日	0.046～0.065
平成27年8月1日	0.044～0.063
平成27年8月31日	0.040～0.059

単位：マイクロシーベルト/時